

カボチャ編



種まき

発芽適温は25℃～30℃。
10.5～12cmのポットに深さが1cm程度
になるように播種する。



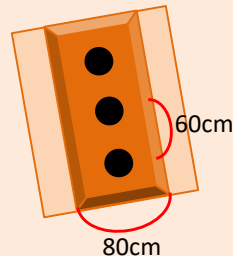
定植



本葉3.5～4枚になっ
たらポットに十分に水
を含ませてから定植する。
根が土に密着
するように軽く
押さえる。

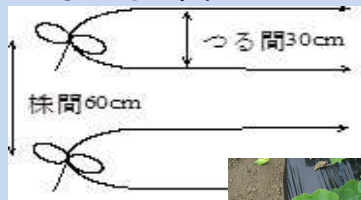
畑の準備

- 植え付け2週間前
苦土石灰100g/m²をまいて耕す。
- 植え付け1週間前
堆肥2kg/m²、化学肥料100g/m²
をまいて耕し畝をつくる。



整枝

- 子づる2本仕立て



本葉が5枚で摘心して子づ
るを伸ばす。子づるが40cm
以上伸びてから揃った2本
に整枝する。

その後の側枝は、着
果節位付近まで随
時除去する。

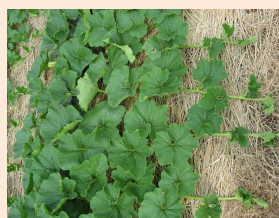


交配



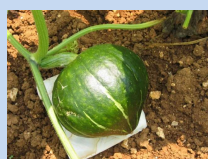
雄花は写真のよう
に花弁をとり、雌し
べの先に軽くつける。
10～16節で交
配する。収穫の目
安にするため交配
日を記録する。

追肥



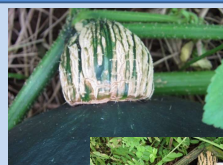
つるが60cm程度の長
さになったら追肥する。
交配前に株元に溝を
掘り、一握り(20g/m²)
程度の化成肥料をまく。

皿しき



果実がソフトボール大
になったら、土壤病害
の発生を防ぐために
実の下にトレイを敷く。
均一に生育させるた
めにととき果実の向
きを変える。

収穫



交配後45～55日に
なったら収穫。目安
はへたが茶色くコルク
化したら収穫する。
収穫後10日程度保存
してから食べるとおい
しい。

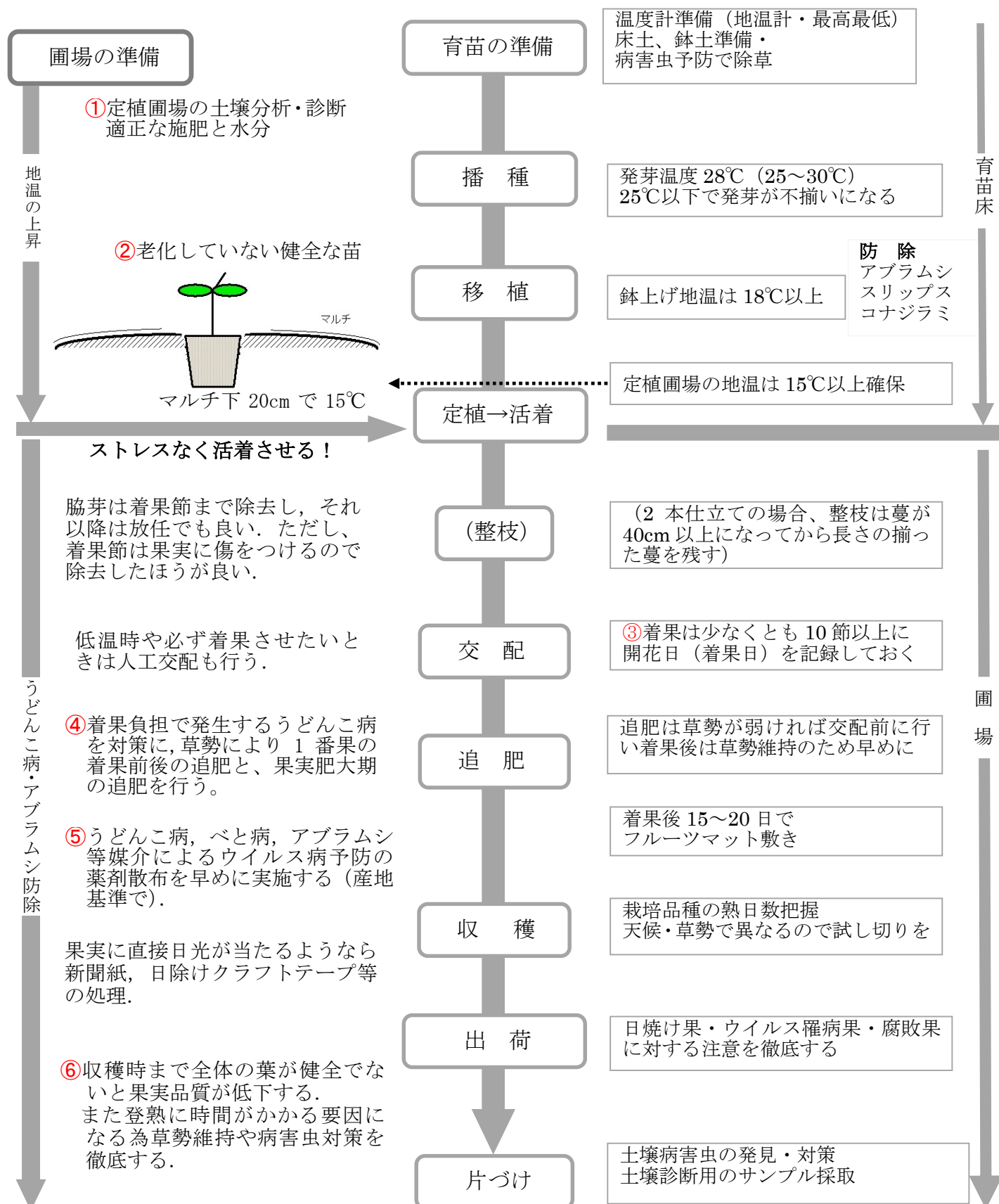
カボチャ「イーテイ」の特性と栽培のポイント

収穫時まで草勢を維持して葉を健全に保つ



※品種や栽培地域などによって異なりますので、詳しくはご相談ください。

<<栽培の流れ>>



カボチャ栽培のポイント <収穫時まで葉を健全に保つこと そのためには>

圃場の準備～定植

① 圃場の状態を把握し定植準備を

- ・ 土壌病虫害のチェック
- ・ バランスを考慮した施肥設計 多肥やカルシウム不足は雌花数の減少や果形の乱れの原因に..

【例】畦間 3.5m 株間 30～40 cm 1 本仕立て 10a 当り 720～1000 株定植の標準元肥施肥量

窒素	10～13 kg	成分量kg/10a)
リン酸	12～15 kg	
カリ	10～13 kg	
カルシウム	50～60 kg	
完熟堆肥	2.0～3.0 t	(圃場全面)

元肥の窒素成分が強く効くと、雌花数の減少や果実が小さく、果形の乱れや花痕部の奇形、登熟が遅れるなどの障害が発生します。特にカルシウム（石灰等）は pH 調整と果実を正常に肥大させるので必ず元肥で施用します

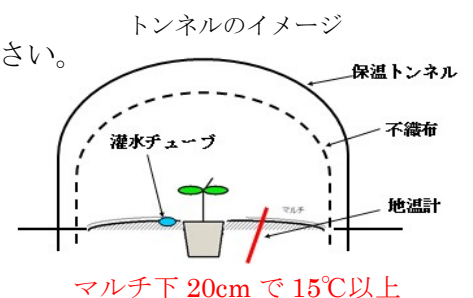
② 老化苗の定植は避けましょう

- ・ 定植時の地温は、マルチ下 20cm で 15℃以上です。（右図参照）
- ・ 定植後はトンネル内の気温が 35℃以上にならないよう換気して下さい。

着果までの管理 基礎体力を十分に....

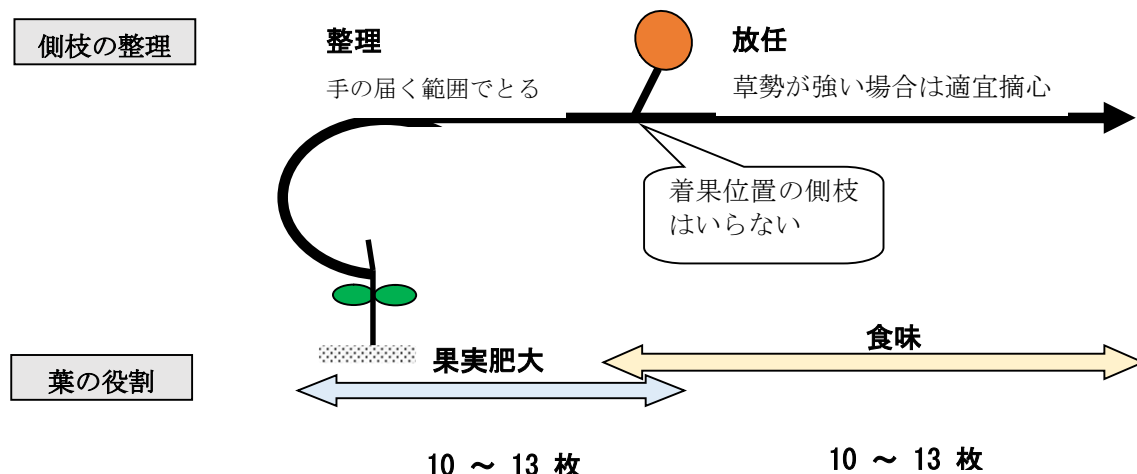
③ 適切な着果節位に着果させましょう

- ・ 低節位への着果は草勢に負担がかかり、果形にも影響があります。



つるの整理

親つる 1 本仕立て。10 節位までの側枝は 15～20 cm 位でとる。特に雌花の節の側枝は強く、果実に傷をつけやすいため早めに除去する。***ハサミは使わないほうが良い 病気を移す!!**



着果は、12 節くらいからとし、着果数は、1 つるに 1～2 果とする。

④ 追肥・水分補給

- ・果実の肥大促進や着果負担で発生するうどんこ病を少なくするために1番果の着果前後の追肥と、果実肥大期の追肥を行いましょう。（チッソ成分で1回に10aあたり2kgくらい）

降雨が少なく効果が期待できない場合は、**液肥**や**葉面散布**などで草勢を維持してください。

また、株元、マルチ内に直接水分補給するのも効果的です。

⑤ 病虫害の防除

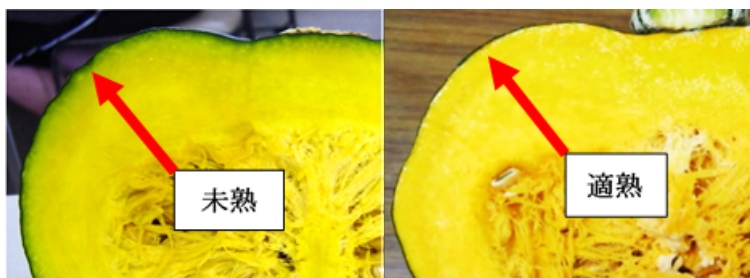
定期的な薬剤散布（発病、発生してからでは遅い）

- ・うどんこ病，つる枯病，べと病など，
ウイルス病――アブラムシの防除をします。
（雑草取りも効果的）
- ・風害対策：大風後は殺菌剤を散布してください。



⑥ 収穫（通常であれば開花後45～50日で収穫になります）

- ・収穫適期は天候や草勢でも異なるため，必ず試し切りや試食をして確認してください。
- ・収穫適期の判定方法は，果梗部のひび割れ，果肉色の発色や試食した際の粉質具合などです。



カボチャは品種に関係なく，収穫時まで**全体の葉が健全**でないと果実品質は良くなりません。
また、病虫害や風などにより葉が傷むと，熟期が遅れ50日経過しても熟さないこともあります。
草勢の維持や病虫害対策を徹底してください。

その他

○作業通路

薬剤散布や収穫作業も効率的に行えます。

○日焼け対策

果実は、直射日光が当たると「日焼け果」発生の原因となります。過度にわき芽を取らない事や、病害・風害などで本葉が痛まないよう注意して下さい。

直接日光が当たるようなら、新聞紙、クラフトテープ（紙のガムテープ）を利用しましょう。

収穫した後に日焼けすることもあります、風乾や貯蔵場所は日陰にしましょう。



○カボチャ果実斑点細菌病について

カボチャの果実に角状の突起が発生する

育苗期から栽培全期間感染する可能性があります、果実に突起が発生するのは、開花前から幼果の時期の感染です。

対策 ・発病苗の除去 罹病葉の摘葉

- ・薬剤防除。 Z ボルドー、園芸ボルドー、コサイドが有効
- ・果実の感染防止には幼果の時期、開花前からの防除が必要です。(着蕾から 2～3 回薬剤防除)
- ・罹病残渣の処分 (残渣のすきこみは次年度の発病を促す)
- ・連作をしない。

○ホモプシス根腐病について

地上部が激しい萎れ・枯死症状が現れ収量が激減する。

カボチャの他キュウリ、スイカ・メロン等ウリ科野菜のみで発病する糸状菌が原因の土壌病害。菌は急激には増殖せず「潜在的な汚染圃場」も問題に。

対策 ・汚染圃場の土を健全な圃場に持ち込まない。靴の裏やトラクターのロータリー等の洗浄

- ・発病した圃場ではウリ科の作付をしない。
- ・クロールピクリンの土壌消毒が最も効果が高い。
- ・酸性圃場は病害が発生しやすい。酸度矯正も有効

◆まとめ 栽培のポイント ◆

収穫時まで葉を健全に保つ! (収穫まで健全な葉が何枚残っているか・・・)

草勢を維持するためには....

着果前 地下部 (根) を充実させる 低節位着果をしない

着果後 追肥 着果期と肥大期に 2kg/10a 程度を数回おこなう

全期間 薬剤散布 病虫害の予防的な防除

適期収穫 熟度(味)を確かめてから収穫

次年度の栽培のために 土壌病害のチェック 圃場のアフターケア